第10回キャンパスベンチャーグランプリ東京　受賞者一覧

◆賞〈部門〉、受賞テーマ、受賞者氏名（大学名）＝敬称略

◆大賞・ＶＥＣ賞〈テクノロジー部門〉
育児に安心と安全を届ける ～Baby Anklet～
富岡大地（法政大学）八嶋佐紀（同）武弓耕太（同）ヨウ・フイゾン（同）

◆関東経済産業局長賞〈ビジネス部門〉
従業員満足度と組織の生産性を上げる〝ほめる〟社内ＳＮＳ　pozica（ポジカ）
今西良光（早稲田大学大学院）飯尾礼治（同）沼尻匠（東京工業大学）
小林怜二（早稲田大学）門田見侑大（同）三浦慶大（同）

◆優秀賞〈テクノロジー部門〉
３Ｄスキャナと３Ｄプリンタによる次世代ネイルチップ「Facile Nail」
椎橋麻里奈（東京大学大学院）帰山凌（同）山賀美裕（専修大学）

◆優秀賞〈ビジネス部門〉
首都圏・愛知・関西在住大学生と地元の優良中小企業のマッチング事業 ～まだ、ここにない、出会いの場～
田中優磨（早稲田大学大学院）藤原正賢（慶応義塾大学）須田唯嗣（立教大学）小布施美春（明治大学）

◆りそな銀行賞〈テクノロジー部門〉
人間計測技術を用いたロボット評価サービス Wevidence
三浦智（早稲田大学大学院）金石大佑（同）

◆日刊工業新聞社賞〈テクノロジー部門〉
「Origoh」～日本のクリエイティビティを世界に～
丸橋裕史（慶応義塾大学大学院）森田博和（シカゴ大学大学院ビジネススクール）

◆奨励賞〈ビジネス部門〉
診療支援アプリ「Sub Doctor」
坂田亮介（東京大学）羅悠鴻（同）スクリット・ウィナヤウェーキン（同）

◆奨励賞〈ビジネス部門〉
不動産投資信託による民間資金を活用した大規模住宅団地のスマート化再生ビジネスモデル
小林寛（東京大学大学院）

◆奨励賞〈ビジネス部門〉
Style Shift―デザイン性が高いビジネスシャツを毎週５着、月額5000円でお届け
柴田英紀（青山学院大学大学院）織田島哲哉（同）嶋田哲治（同）有田翔（同）

◆奨励賞〈ビジネス部門〉
喫茶店と企画を繋ぐＷＥＢサービス『Closedcafe』が喫茶店を救う
船尾拓史（中央大学）小玉千陽（東京工業大学）坂本優（同）山尾駿之介（駒沢大学）

◆奨励賞〈ビジネス部門〉
モノづくり応援ソーシャルプラットフォーム事業
井出由紀子（青山学院大学大学院）小林央（同）中田智久（同）加藤由将（同）

審査講評

起業へ　若者の背中を一押し

審査委員長
各務　茂夫

競争（コンテスト）は洗練を生み出すという。わが国の野球が世界最高水準にあるのも、阪神甲子園球場を舞台にした高校野球の全国大会、東京ドームで開かれる「都市対抗野球大会」といったコンテストの存在が大きい。「日本音楽コンクール」は数多くの有望な新人音楽家を輩出して、世界で活躍する日本人音楽家のプレゼンスに大きく寄与している。「キャンパスベンチャーグランプリ（ＣＶＧ）」は、このような大会だ。全国的な学生ビジネスプランコンテストであり、学生の起業家（アントレプレナー）魂に火を付けて、まさに若手アントレプレナーの登竜門となっている。

10周年を迎えたＣＶＧ東京は、例年通り激戦区で、数多くの事業化提案の中からファイナルに進出した11チームはどれも粒ぞろいだった。大賞に輝いた法政大学の富岡大地さんらの「育児と安心と安全を届ける～Ｂａｂｙ Ａｎｋｌｅｔ～」は、少子化が進展する中で、若い母親のストレスの最大の源泉となっている育児の問題、とりわけ「乳児突然死症候群」に着眼。心拍数を感知して緊急時には警告を発することができる技術をベースとした乳児ケアのテクノロジーベンチャーだ。技術そのものの他分野への応用も示唆されており、大きな可能性を感じた。

関東経済産業局長賞は早稲田大学大学院の今西良光さんらの「従業員満足度と組織の生産性を上げる〝ほめる〟社内ＳＮＳ　ｐｏｚｉｃａ（ポジカ）」。店舗オペレーションを伴う多くの企業が直面する、高い離職率の問題に着眼した。通常紙ベースで行われる「サンクスカード」をスマートフォンの最新技術に置き換えることで、企業のマネジメントを容易にして、かつ生産性を上げるという野心的な事業提案で、単なるビジネス〝プラン〟ではなく、〝リアルビジネス〟の迫力を感じた。

〝事業化プランを策定すること〟から、いかに〝実際に起業すること〟へ、若者の背中を一押しできるか。ＣＶＧへの期待は高まるばかりだ。ＣＶＧ卒業生の中から世界に羽ばたくアントレプレナーが現れつつあることを強く感じたＣＶＧ東京だった。

第10回ＣＶＧ東京審査委員（敬称略）

◆審査委員長
各務　茂夫（東京大学産学連携本部教授）

◆特別審査委員
長嶋　繁　（経済産業省関東経済産業局地域経済部新規事業課課長）

◆委　員
西尾　昇治（東京商工会議所理事・事務局長）
田村　真理子（日本ベンチャー学会事務局長）
山元　文明（りそな総合研究所専務）
大庭　裕信（ＡＧＳ取締役兼執行役員法人事業本部本部長）
臼杵　ひろみ（ファンケルＣＳＲ推進事務局長）
下條　武男（日本コンピュータ・ダイナミクス名誉会長）
田中　豊　（東京ニュービジネス協議会副会長、アートグリーン社長）
松谷　卓也（プロジェクトニッポン社長）
川原　洋　（日本ＭＩＴエンタープライズフォーラム理事長、サイバー大学学長）
木村　将之（トーマツベンチャーサポートアドバイザリーサービス事業部部長）
市川　隆治（ベンチャーエンタープライズセンター理事長）
伊藤　豊　（スローガン社長）
伊藤　健吾（モビーダジャパン　チーフアクセラレーター）
竹本　祐介（日刊工業新聞社執行役員編集局長）

関東経済産業局長賞　ビジネス部門

従業員満足度と組織の生産性を上げる〝ほめる〟社内ＳＮＳ　ｐｏｚｉｃａ（ポジカ）

早稲田大学大学院　**今西　良光**

今西さん㊧、飯尾礼治さん

人は叱責され続けると萎縮して自分の力が十分に発揮できなくなる。それによって、パフォーマンスが落ちて、さらに叱責されるという負のスパイラルに陥り、徐々に尊厳を失ってしまう。組織がその成員を不幸にするということは絶対にあってはならない。人が成長する上で叱咤激励は必要な要素であるが、世の中には激励の質量が圧倒的に不足している組織が多いと言わざるを得ない。このような社会や組織を変えるための一つの手段として、新たなサービスの提案を考えた。

新サービスはコンセプトが「現場の小さな承認を増やす」。多くのサービス企業で使われている社内コミュニケーションツール「サンクスカード」をウェブに置き換えた。これによって、従業員満足度の向上などサンクスカード自身が持つメリットを生かしながら、運用・管理・集計の工数が膨大、セクションを越えての共有が困難などのデメリットを解消。離職率の低下やサービス品質の向上、オペレーション改善などが見込める。

このサービスが提供する価値は、褒めたり、感謝したりすることを増やすことにある。したがって風土改善に寄与する。ターゲットをサービス企業に特化。アルバイトやパートなどの非正規従業員がメインになる。例えば、現場でやり取りされるたくさんのカードの中から光るアイデアを自動的に抽出できる。

サービス産業向けに提案

優秀賞　テクノロジー部門

３Ｄスキャナと３Ｄプリンタによる次世代ネイルチップ「Ｆａｃｉｌｅ Ｎａｉｌ」

東京大学大学院　**椎橋　麻里奈**

椎橋さん㊧、山賀美裕さん

女性のつめのおしゃれの主な方法として、ジェルネイルとネイルチップの2種類がある。

ジェルネイルは紫外線で硬化する光硬化樹脂のジェルを用いて、自分のつめの上に人工のつめを形作る方法。見た目がきれいで外れることがないという利点がある一方、簡単に着脱することができず、社会人女性には気軽に利用できないという欠点がある。

ネイルチップは合成樹脂で作られた人工つめで、両面テープや、接着剤でつめに貼り付ける。大量生産の既製品と、オーダーメード品があり、どちらも簡単に着脱できて、気軽に使える利点がある。しかし、既製品は個人のつめの形にフィットせず外れやすい。オーダーメード品は高価格であるため、日常から気軽に使われていない。

こうした理由から、現在、抜群のフィット感を持ち、気軽に楽しめる安価なネイルサービスは市場にない。

そこで、このようなネイルの開発が求められていると判断して、顧客のつめの形にぴったり合う「完全オーダーメードネイルチップ」の販売を考えた。３Ｄスキャナーで収集した顧客のつめデータを基に、３Ｄプリンターを用いてぴったり合うネイルチップを短時間で作成。郵送で顧客に届けるサービスだ。外部機関に新規顧客の開拓、代金の回収を依頼する。一度データ収集した顧客は、2回目以降、インターネットで注文ができる。着脱可能であり、週末などに、気軽にネイルを楽しむことが可能だ。

気軽にぴったりネイル

優秀賞　ビジネス部門

首都圏・愛知・関西在住大学生と地元の優良中小企業のマッチング事業～まだ、ここにない、出会いの場～

早稲田大学大学院　**田中　優磨**

左から須田唯嗣さん、小布施美春さん、藤原正賢さん、田中さん

地方の企業による首都圏在住学生向けの就職説明会は、学生、企業双方にとって、満足のいくものであるとは限らない。

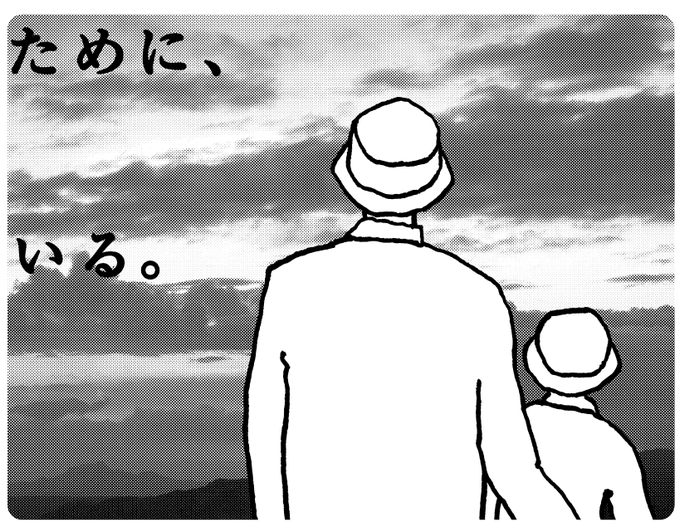
ある学生は就職活動で地元企業の集まる説明会に参加したものの、満足度が低かった。ブランド的魅力がなく、説明が洗練されていない。なりより合同説明会では業務の内容は分かっても、地元で働くイメージを膨らませることができなかった。地元で働くイメージを膨らませられないことが、地元志向の低下、大都市一極集中につながる。その結果、地方企業は人材確保に苦労する。

求めているのは、地元で働く多方面の人の話を聞くこと。そこで同様のことを考える学生が、地元就職に直結する交流の場を企画した。２０１３年６月29日に東京都内で６５０人の長野県出身の学生を集めて、参加費１０００円で地元の企業とのマッチングをする信州若者１０００人会議を開催。講演会や学生プレゼンテーションなどの企画を通じて、学生の帰郷の意欲が高まった場において、参加企業がそれぞれの企業の魅力を発信。企業は費用を抑えて採用活動ができた。

信州若者１０００人会議は、さまざまな大学などから学生が集まって運営した。同世代の若者が考えることで、これからの地方を、日本を支える若者が参加しやすくした。参加をきっかけに、新卒内定、転職を果たした人がいる。今後も既存の採用市場、出会い方を打破する、新たな就職活動の仕組みを開拓する。

信州若者1000人会議開催

いつもの
安心のために、
いつも
そばにいる。



化粧品による肌のトラブルをなくしたい。そんな想いから無添加化粧品を生みだしたファンケル。以来、サプリメントや発芽米、青汁などさまざまな商品とサービスを、安心、安全、やさしさの視点から提案しつづけています。

FANCL

株式会社ファンケル　〒231-8528 横浜市中区山下町89-1 http://www.fancl.jp/ 0120-34-2222

変わりゆく社会に、
あたらしいオートメーションを。
"automate?"
それは、あたらしい価値をつくりだす、
オムロンだけの、
進化するオートメーション。
We automate!

www.omron.co.jp

OMRON
Sensing tomorrow™